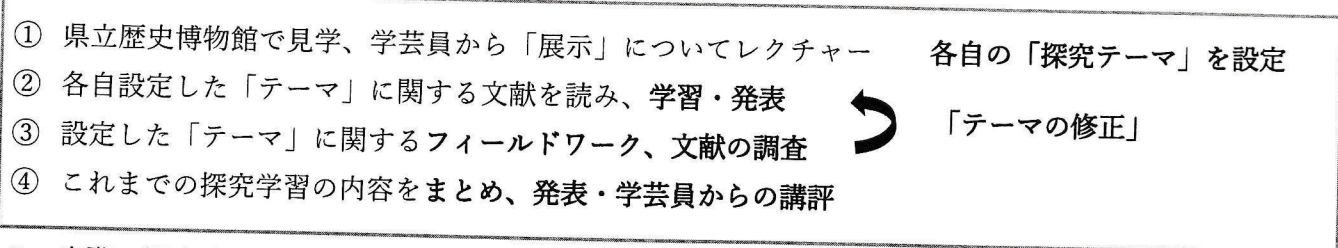


はじめに

新学習指導要領では「世界史探究」「日本史探究」「地理探究」が設置され、生徒主体での課題を設定し、「自ら学び自ら考える力」を育てる「探究学習」に焦点が当てられている。さらに指導要領の解説には、「内容に関係する専門家や関係諸機関などとの円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した指導を工夫すること」と明記され、学校外部の諸機関と連携して学習をすることが求められている。本報告は神奈川県立博物館（以下、県博）の学芸員のご厚意にあずかり、2021年7月からゼミ形式（生徒4人）で実施した、県博と探究学習をつなげた実践報告である。コロナ禍の状況下でご協力いただいた各機関の皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げますとともに、本実践が今後の博学連携の一助となれば幸いである。

1 博学連携と探究学習の流れ

探究学習では、生徒が自ら問をたてPDCA型学習を意識することが求められている。本実践では、以下のフローのもと、PDCA型学習にあてはまるよう計画した。



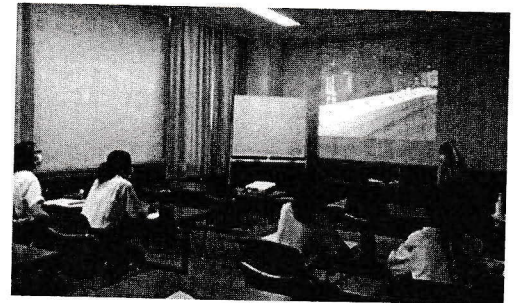
2 実際の探究学習の様子

第1回 7月27日（火）博物館見学の事前学習

歴史探究学習では4人が参加（1年2人、2年2人、計4人）。事前学習では、キャプション集・博物館の概要・教員作成のワークシートの配布。博物館見学で、博物館内で興味を持った3つの展示品を書き出し自分のテーマを設定することを目標とすることなどを伝えた。

第2回 7月28日（水）神奈川県立博物館の見学・学芸員のレクチャー

- 9:30~10:30 展示見学（常設展中心）テーマ探し
- 10:30~11:10 学芸員によるレクチャー（20分×2名）
- 11:10~12:00 展示見学（十王図展・運動のすすめ展含めて）



学芸員からのレクチャーでは

- ・展示テーマの設定方法
- ・展示方法について
- ・展示品の研究方法（EX 浮世絵を例に絵画の研究方法について）
- ・展示品のガイドの書き方の工夫などを話していただいた。

内容は「探究学習」の方法に繋がる点が多くテーマ選定や資料の見方などについて熱心に聴講していた。レクチャー前後で県博内を見学したが、生徒の観察する視点も変化している様子がうかがえた。

第3回 7月29日（木）各自のテーマ発表

博物館学習で学んだことを基に、各自のテーマを発表・内容の説明

〈第一回テーマの設定〉

生徒1	探究テーマ「文明開化 横浜真葛焼」
生徒2	探究テーマ「神奈川の古代の墓」
生徒3	探究テーマ「神社の建築様式」
生徒4	探究テーマ「関東大震災と復興」

第4回 9月13日(月) Meetにてオンライン発表会

夏休み中に調べた内容をA4判にまとめ、発表会を実施。緊急事態宣言下で分散登校だったので、写真を事前共有しMeetで発表会を行い、質疑応答の時間をとった。生徒同士はお互いのテーマについては鋭い意見から素朴な質問まで出る中、お互いのテーマ学習に刺激を受けていた様子がかがえた。

生徒の感想(そのまま抜粋)

- 生徒1** 今回自分で真葛焼について調べ、真葛焼を作った宮川香山を中心に調べる中で、実際に作品を見たいと思いました。又、発表し、新しい意見を聞いて、他の視点で真葛焼を見ることができ、真葛焼の輸出先など、もっと多くのことを知りたいと思いました。
- 生徒2** 2人の発表は、知らないことばかりでためになった。自分で調べたことをまとめるとしても、ひとつの情報にとらわれずにたくさんの情報を集め、自分の言葉で相手に伝えられるようにしたい。今、自分のすべきことは何について調べたいのかを考え、沢山情報を集めること。その情報の中から必要なものを選んで、まとめていきたい。

〈第二回テーマの設定〉 発表後のテーマの変化

生徒1	探究テーマ「横浜真葛焼と輸出先について」
生徒2	探究テーマ「大磯の古代の墓とその被葬者について」
生徒3	探究テーマ「江の島神社縁起と地理的つながりについて」
生徒4	探究テーマ「関東大震災と復興」

生徒の探究学習の様子

それぞれのテーマに沿って博物館・遺跡・寺社等を訪問しレポートを作成するほか、図書館で郷土資料や風土記、寺社縁起などを読み考察を深めた。特にフィールドワークは生徒にとって刺激があるようで、現地で実物を見ることで学習意欲が増す様子が見られた。生徒の実力に応じては論文検索サイトから、オープンアクセスが可能な関連論文を紹介。教員側から適宜助言を与え生徒の探究を手助けする支援をすることで、生徒各自の探究学習がより深いものになるよう務めた。生徒は探究が進む中で漢文資料や論文に対しても抵抗感が薄れたようで、ネットや辞書などを駆使して理解しようと努める姿が見られた。

おわりに

探究学習は中長期的視点が必要になる。教員側でスケジュールを管理する必要があり、本実践では計画通りいかなかった面もいくつかあった。しかし各自の関心に沿って学習がすすめることで生徒の学びが継続する。探究学習では「問い」をたてることが核となるが、その点で学芸員からのレクチャーを受けたことは生徒にとって有意義なものとなった。また、実物をみて考えることができる博物館教育の利点が探究学習に生かされ、博学連携の意義を再認識する機会となった。